



1 「地域における児童委員・主任児童委員の活動等の現状と課題に関する調査研究」結果から見たこと

松原 康雄

1 今を知り、これからを考える

令和2年3月、全国社会福祉協議会が『地域における児童委員・主任児童委員の活動等の現状と課題に関する調査研究 報告書』を公表しました。この調査研究では、令和元年度全国主任児童委員研修会に参加された主任児童委員、民生委員・児童委員（以下、児童委員）の方がたに事前と研修会当日の二度、実践事例と民児協の体制とについてアンケート調査を実施し、その結果をもとに8か所の民児協にヒアリングを実施しました。

調査研究結果から活動の環境整備と充実・強化に必要な視点をまとめた「10の提言」を踏まえて、今後の児童委員活動の推進について記述してみたいと思います。

10の提言

活動に関すること

- ① 民児協会長を中心とした組織的な活動であること
- ② 多様な関係機関・団体と連携、協働した活動であること
- ③ 参加者のニーズに応じた活動であること
- ④ PDCAサイクルを活用した活動の振り返りと見直しを行うこと

民生委員・児童委員として

- ⑤ 活動をとおしてやりがいや達成感を感じ、楽しむこと
- ⑥ 働きながら活動を続けることができるための環境整備を図ること
- ⑦ 民生委員・児童委員、主任児童委員活動の周知を図ること
- ⑧ 主任児童委員の活動の質の向上

会長・民児協として

- ⑨ 活動の継続に向けた運営費、活動拠点などの確保に向けた支援
- ⑩ 主任児童委員が民児協の中で孤立しないようにしていくこと

2 組織的な活動の必要性

これまで、多くの民児協が子どもや子育て家庭への支援で地域の特性を活かし、固有のニーズに対応した多様な活動を展開してきました。とくに平成6（1994）年の主任児童委員制度の創設は、児童や子育て支援に関する活動にさらなる推進力を与えました。しかし、制度創設は、子ども・子育て支援に関する民児協活動を主任児童委員に委ねることを意味しているわけではありません。子どもの豊かな成長発達や充実した子育てが、子どもや家族だけでは成し遂げられないのと同様に、主任児童委員だけでは多様な活動を成り立たせ、継続させることはできません。「子どものことは主任児童委員にお任せ」という状況があるとすれば、むしろ民児協の子ども・子育て支援活動は弱体化することになります。「あの組織は担当の人がしっかりしている」という「高評価」は、その人が異動等で担当者からはずれることで「がらりと変化してしまう」ことやその逆があることは、皆さんもご経験がおありになると思います。個人に頼る活動は組織としては脆弱なものとなります。民児協でも同様です。メンバーが無理なく参加し、誰でもが取り組みうる組織的活動にこそ継続性と効果、周囲からの信頼形成が見込まれます。

会長には、主任児童委員を民児協のなかで孤立させないこと、民児協として、地区担当児童委員の参加と相互協力を構築しながら活動を展開するリーダーシップが期待されています。児童福祉に関する部会を設置したり、定例会で主任児童委員活動の報告の場を設けたりと、民児協内で子どもや子育て家庭に関する話しあいや情報共有の場があることも重要です。協議の時間配分などの工夫も先進的な民児協から学ぶことができるでしょう。

組織的な活動は、民児協内部だけに限りません。民児協と地域に存在する社会資源との連携も必要です。今回実施した2種のアンケート調査の結果からも、各民児協は、小中学校、社会福祉協議会、町内会・自治会など、さまざまな機関・団体と連携しながら活動していることが明らかになりました。要保護児童対策地域協議会への参加も会長や主任児童委員の活動に含まれていますが、そこで得られた情報については、個人情報保護を遵守して民児協に伝えることで、組織として子ども・子育てに関する状況把握が可能となります。

日常的なつながりも重要です。日常活動のなかで、民児協内の特定の間人だけが活動するのであれば、外部関係者による個人への認識は高くなるものの、当該民児協としての活動であるという認識は高まらない懸念があります。民児協として活動に参加あるいは活動を主催することは、個々の児童委員、主任児童委員だけではなく、民児協の存在の認知を高めることにもつながります。民児協も地域のなかで孤立をしていれば、児童関係にかかわらず、効果的な活動は期待できません。また、活動の継続も困難でしょう。関連して、活動に関わる経費も、組織としての民児協への理解と活動への協力機運が高まるなかで獲得できる先行事例が多数あります。

組織的活動については、民児協として、また当該活動に関わる機関・団体などとPDCAサイクルを活用した振り返りを行うことが重要です。何ができたか、どのような効果があったのか、課題は何かを参加者やボランティアの声なども参考にしながら、民児協内はもちろんのこと、関係機関・団体など活動に関わった関係者も交えた定期的な話しあいの場を設け、活動の振り返りを行い、必要に応じて見直し、次の活動につなげていく流れをつくるのが大切です。児童委員の任期を勘案すれば3年を一期として考え、本年は前期からの活動の引き継ぎとその評価、新たな活動への取り組みの可否の判断が課題となるでしょう。

3 子ども、子育て家庭のニーズに応える

子ども・子育て支援活動は、まず何よりも子どもや家族が参加して「楽しい」、「ほっとする」内容のプログラムである必要があります。充実したプログラムを実施するためには、当事者の声を聴くことが

第一歩となります。また、当事者の声のなかから感謝や肯定的な評価が得られることは、民児協・関係者のやりがいにもつながります。ニーズに応えられている活動であれば、その成果も実感でき達成感も得られ、活動の参加意欲も高まるでしょう。定期的なアンケートなども有効ですが、活動の開始時、終了時などのちょっとした雑談からも、従来の活動の改善点や新たなニーズに関するヒントを得ることができます。

当事者だけではなく、多くの地域住民からの情報も貴重です。地域住民の活動への理解と支えがあってこそ活動の立ち上げや継続が可能となります。参加者の声を聴くことに加えて、児童委員、主任児童委員が日常的に地域のニーズに敏感であること、気づきを共有することが大切です。今回紹介された実践事例でも、気づきを契機に、活動が立ち上げられているものが多く見受けられました。継続は大切ですが、漫然とした前年度活動のコピーでは、やがて地域のニーズから乖離したものになってしまう懸念さえあります。内部および関係者が参加した定期的な見直しのなかで、子ども、子育て家庭が求める支援内容の変化にも気づくことができます。

活動のなかでは、「気になる親子」に気づく場合もあります。活動前後の時間帯は、このような親子が「実は……」と相談をする機会ともなります。数は少ないかもしれませんが、子どもの成長発達を保障するうえで重要な契機となる場合があります。加えて「気になる親子」が必ずしも、相談に訪れるわけではありません。他の機関・団体も関わっていない場合もあります。日常活動のなかで、連携が深められている専門機関に情報提供することも、子どもの虐待防止にとっては大切です。声にならない、なりにくいニーズに気づき、応えることでもあります。わが地域では、どのようなニーズがあり、自分たちなりにそれに応えていくためには何ができるかを見定めることが大切です。他地域の事例に学ぶことは重要ですが、やみくもな模倣では、効果も期待できません。担当地域の特徴を日頃から把握しておくことも必要でしょう。

4 児童委員活動を推進する

改革は必要ですが、その基盤には、見直しが組み込まれた活動の継続がなされる必要があります。評価の高いプログラムであれば、なおさら短期で終わってしまうことは参加者の失望を招くこととなります。活動継続のヒントは、特定の児童委員、主任児童委員に役割が集中しないこと、地域において理解者、協力者を個人的にも組織的にも増やしていくことにあります。やりがいや達成感の共有も、実践事例での共通点でした。活動の継続や立ち上げという観点からは、「無理をしない」ということも重要です。「良いことだから、他のことはせずとも、これに集中すべき」という考えだけに固執すれば、立ち上げ時の勢いが弱まるなかで、活動はやがて消滅する可能性がありますし、この経験は新たな活動へのためらいや、枷^{かせ}となってしまう危惧があります。報告書で紹介された事例の多くは、いずれもできる範囲での活動であり、活動を支える関係者の輪も広がっていることがわかります。活動の立ち上げや継続にあたって、民児協として、提案者、中核となるメンバーの熱意を尊重しながら、バランスをどうとっていくか、会長のリーダーシップが期待されるところです。

全国には、まだまだ多くの優れた実践事例があると思います。自分たちの活動を発信するとともに、近隣地区のあるいは状況が共通する地域に学ぶ機会も継続してください。私も多様な機会を得て、参加させていただき、学びを深めたいと思います。児童委員活動の継続と活性化に期待しています。

『地域における児童委員・主任児童委員の活動等の現状と課題に関する調査研究 報告書』は全民児連ホームページに掲載しています。(右側のQRコードを読み取り「専用ページ」へ)
ホーム>民生委員・児童委員・民児協事務局専用ページ> 4.民生委員・児童委員活動に関する調査報告書等



2 事例

※掲載事例は、『地域における児童委員・主任児童委員の活動等の現状と課題に関する調査研究 報告書』から抜粋し、再編集したものです。



事例 1

赤ちゃんルーム「チルチル・ミチル」 ～転入してきた親子を孤立させないために～

【名古屋市天白区】天白区植田南学区民生委員児童委員協議会

●赤ちゃん訪問から子育てサロンに

★ 民児協の「すくすく訪問事業」が市の事業へ

平成10年度より、区民児協は、3か月児健診を受けた乳児家庭を対象に全学区の主任児童委員と担当地域の民生委員・児童委員による「すくすく訪問事業」を始めました。なお「すくすく訪問事業」は「赤ちゃん訪問事業」として、平成19年度から名古屋市の子育て支援施策の事業となり、現在も継続中です。

★ 訪問から集う活動へ

植田南学区は、多くの大規模集合住宅や社宅があり、「すくすく訪問」による訪問先が3か月で100件になるほど対象家庭が多くなりました。また当時主任児童委員は1人で仕事もしていたため、各担当地域の民生委員・児童委員や訪問宅との日程調整等に変な苦労していました。そこで訪問に代わって、親子が集まってできる活動を検討しました。

★ 拠点はコミュニティセンター

親子が集える場所を探していたとき、植田南コミュニティセンターが開設されることになり、そこを拠点にして活動を始めことにしました。

平成12年6月、植田南コミュニティセンターの完成とともに、親子が気軽に集まれる赤ちゃんルーム「チルチル・ミチル」を立ちあげました。

なお、植田地区民児協は、コミュニティセンターの使用料を補助するなど、活動をサポートしています。



●赤ちゃんルーム「チルチル・ミチル」とは

| | |
|-----|---|
| 対象 | 1歳未満の子どもがいる学区在住の保護者 |
| 活動日 | 火曜日 10時～11時30分（8月は休み） 月齢グループごとに月1回開催（1グループ10組前後） 予約はなく、自由参加 |
| 参加費 | 初回のみ200円（通信費や卒業会の費用代として） |

●「チルチル・ミチル」活動の流れ

市が「赤ちゃん訪問事業」のために、出生後3か月の第1子および転入した7か月までの第1子と親の名簿を定期的に地区民児協に提供しています。

この名簿が提供されることにより、転入してきた親子も“つながり”をもつことができます。

主任児童委員は「チルチル・ミチル」開催案内を対象家庭に配付します。

参加の場合

赤ちゃんルーム「チルチル・ミチル」



植田南コミュニティセンター

「赤ちゃんサロン チルチル・ミチル」のご案内

お子様のお誕生おめでとうございます
名古屋市では、初めての赤ちゃんが誕生したご家庭に地域の子育て支援情報をお届けしています。植田南学区ではお母さま方の交流も兼ねて赤ちゃんサロンを下記のように実施いたしますので、是非ご参加ください（1歳になるまで毎月1回の予定）。参加できないご家庭には必ず後日訪問致しますので、ご都合の良い日時をお知らせくださいますようお願いいたします。

日時：令和2年 1月 7日（火）
午前10：00～11：30（次回2/4予定）
場所：植田南コミュニティセンター
天白区植田1-810（ℓ803-2655）

参加費：初回のみ200円

*お子様との外出時に必要なもの（紙おむつ、ミルク、バスタオル等）は各自でご準備下さい。

「チルチル・ミチル」開催案内

不参加の場合でも…

「チルチル・ミチル」に参加できない親子にも、主任児童委員が必ず訪問しています。



市のホームページの子育て応援サイト、区の子育て便利帳に「チルチル・ミチル」が紹介されています。

また独自にFacebookで活動内容を発信し、活動を周知しています。

●月齢が近いと仲よくなれるね

★ グループ分けにひと工夫

「チルチル・ミチル」は、参加者を月齢で分けています。例えば1月～3月生まれで1グループ、4月～6月生まれで1グループなどです。

それぞれのグループが集まるのは月1回です。全体で3グループあるので、「チルチル・ミチル」は、月に3回開催しています。

★ 輪になっておしゃべり

10時までに植田南コミュニティセンターに集まります。予約制ではないので気軽に参加できます。

区社会福祉協議会をとおして民間企業から寄付されたおもちゃを真ん中に、輪になって子どもを遊ばせながら、母親同士おしゃべりをして交流します。

子どもの月齢が近いことから、話題や悩みも共通することが多く、話がはずみます。

★ 主任児童委員は“見守ること”

主任児童委員は、赤ちゃんの様子を見守り、時折、赤ちゃんを抱っこしてふれあいます。

終了前に、絵本の読み聞かせや、みんなで歌を歌うなどして、しめくります。

満1歳の卒業会では、主任児童委員の手作りおかし等で成長を祝います。

★ 保健師との連携

市の学区担当保健師が時どき参加して、母親の相談に応じています。主任児童委員とは情報共有を図っています。

令和2年度 すくすく赤ちゃんサロン 年間予定表 (2020年1月1日)

子育てサロン (チルチル・ミチル)
場 所 植田南コミュニティセンター (第一・二・三次曜日、又は第四)

| 対象者 | 2019.7～9月生 | 2019.4～6月生 | 2019.1～3月生 |
|-----------|--------------|--------------|--------------|
| 2020年 1月 | 7日(火) | 14日(火) | 21日(火) |
| 2020年 2月 | 4日(火) | 18日(火) | 25日(火) |
| 2020年 3月 | 3日(火) | 10日(火) | 17日(火) |
| 対象者 | 2019.10～12月生 | 2019.7～9月生 | 2019.4～6月生 |
| 2020年 4月 | 7日(火) | 14日(火) | 21日(火) |
| 2020年 5月 | 12日(火) | 19日(火) | 26日(火) |
| 2020年 6月 | 2日(火) | 9日(火) | 16日(火) |
| 対象者 | 2020.1～3月生 | 2019.10～12月生 | 2019.7～9月生 |
| 2020年 7月 | 7日(火) | 14日(火) | 21日(火) |
| 2020年 8月 | | 休み | |
| 2020年 9月 | 1日(火) | 8日(火) | 15日(火) |
| 対象者 | 2020.4～6月生 | 2020.1～3月生 | 2019.10～12月生 |
| 2020年 10月 | 6日(火) | 13日(火) | 20日(火) |
| 2020年 11月 | 10日(火) | 17日(火) | 24日(火) |
| 2020年 12月 | 1日(火) | 8日(火) | 15日(火) |
| 対象者 | 2020.7～9月生 | 2020.4～6月生 | 2020.1～3月生 |
| 2021年 1月 | 12日(火) | 19日(火) | 26日(火) |
| 2021年 2月 | 2日(火) | 9日(火) | 16日(火) |
| 2021年 3月 | 2日(火) | 9日(火) | 16日(火) |

年間スケジュール表

| 開催時間 | 10:00 ～ 11:30 | | |
|----------|---------------|--------------|------------|
| 対象者 | 2019.7～9月生 | 2019.4～6月生 | 2019.1～3月生 |
| 2020年 1月 | 7日(火) | 14日(火) | 21日(火) |
| 2020年 2月 | 4日(火) | 18日(火) | 25日(火) |
| 2020年 3月 | 3日(火) | 10日(火) | 17日(火) |
| 対象者 | 2019.10～12月生 | 2019.7～9月生 | 2019.4～6月生 |
| 2020年 4月 | 7日(火) | 14日(火) | 21日(火) |
| 2020年 5月 | 12日(火) | 19日(火) | 26日(火) |
| 2020年 6月 | 2日(火) | 9日(火) | 16日(火) |
| 対象者 | 2020.1～3月生 | 2019.10～12月生 | 2019.7～9月生 |
| 2020年 7月 | 7日(火) | 14日(火) | 21日(火) |
| 2020年 8月 | | 休み | |
| 2020年 9月 | 1日(火) | 8日(火) | 15日(火) |



おもちゃを真ん中にして



母親同士、話がはずみます

●転入してきた親子にも広がる輪

★ 初めての子育てと知らない土地での生活

植田南学区は、天白区の中で最も人口増の学区です。交通の便もよく、大規模集合住宅や社宅が建ち並び、転勤により引っ越してきた家庭が多い地域です。

初めての子育てだけでも不安なのに、知らない土地で知り合いがいない生活。どんなに不安なことでしょう。訪問という1対1のコミュニケーションはとても大事ですが、「チルチル・ミチル」は親子が集まり交流することで、楽しい時間を過ごすことができます。LINE交換、サロン後のランチなど少しずつ横のつながりや輪が広がっています。

「チルチル・ミチル」卒業後に、サークルを立ちあげたグループもあります。

★ 参加者の声

- * 同じような月齢児のグループなので共通の話題でつながりができました。
- * 1か月後に他の子どもの成長した様子を見て、わが子の成長を感じることができます。
- * インターネットで調べて子育てにやさしい地域だったので、引っ越しを決めました。
- * 初めての参加ですが、来てよかったです。

●活動を広げるために

月齢が一番大きいグループの活動開催時に、「チルチル・ミチル」を卒業した1歳以上の親子や第2子の親子にも参加を呼びかけています。好評なだけに、参加人数が増えれば、開催日を増やす必要があります。また、転入してきた1歳以上の親子も対象にすることや、出産前の妊婦をサポートするための取り組みなど、活動を広げていくためには、活動体制など検討を重ねていくことが必要です。

地域の概要と民児協

天白区植田南学区民生委員児童委員協議会

- 委員構成 民生委員・児童委員21人、うち主任児童委員3人
令和元年度より主任児童委員を1人増員し、子育て支援体制の充実が図られています。
- 名古屋市天白区植田南
天白区は、名古屋市の東部に位置し、大規模な集合住宅や多数のマンションなどが立ち並び住宅地域として発展しています。
植田南学区は、地下鉄の開通によって交通の利便性が向上し、大規模集合住宅や社宅等の建設が進み、転入者の中には転勤で引っ越してきた家族も多く、乳幼児のいる家庭が増え続けています。

事例
2

安中市乳幼児宅訪問事業

～訪問時に子育て情報を届けます～

【群馬県安中市】安中市民生委員児童委員協議会

●民生委員・児童委員を知ってもらうために

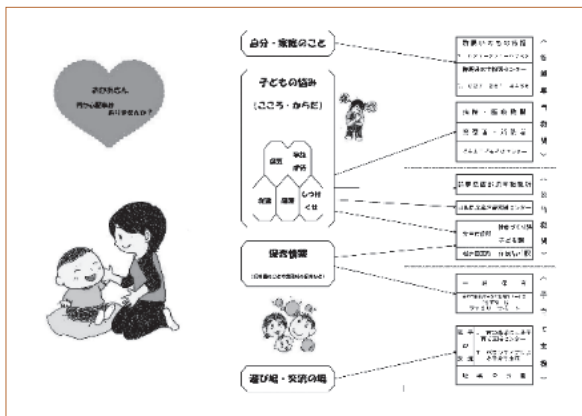
安中市民児協は、平成13年から市内の0歳～2歳までの子どもがいる家庭を訪問する「乳幼児宅訪問事業」を実施しています。子育てをしている親が地域で孤立しないよう支援するとともに、児童虐待の予防を目的としています。当初、民生委員・児童委員、主任児童委員を知らない親が多く、「うちは結構です！」と断られることもありました。

そこで、他の民児協が作成したPRパンフレットを参考にして、保育情報、公園などの遊び場等の情報を記載した、手作りの3つ折りリーフレット「児童委員活動の案内」、「おかあさん、何か心配事はありませんか?」、「子育て支援マップ」を作成し、訪問時に配付し、周知を図っています。

市のホームヘルプサービス事業や産後ケア事業のチラシ、その他おもちゃの病院、ファミリーサポートセンターなど子育てに関連する団体の資料も一緒に配付します。



わたしたちは主任児童委員です



おかあさん、何か心配事はありませんか？



児童委員活動の案内

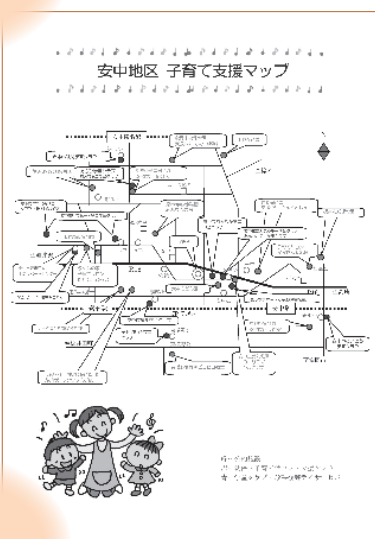
●主任児童委員みんなで作る子育て情報

★主任児童委員連絡会の取り組み

主任児童委員連絡会では、24人の主任児童委員が集まり、訪問事業で配付するパンフレット等の内容を検討したり、資料を作ったりしています。

特に、**子育て支援マップ**は、地区担当主任児童委員が毎年関連情報を収集し、常に新しい情報に更新しています。

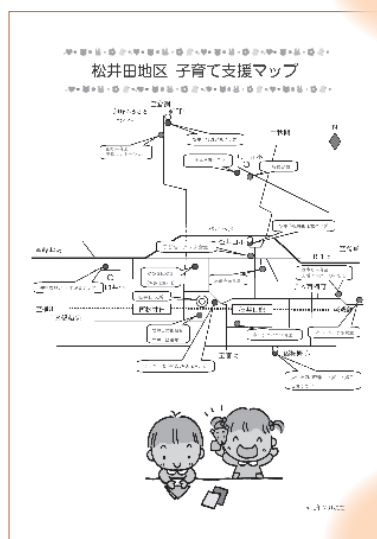
地区担当
主任児童委員が
常に更新



身近な地域の
マップです

子育て支援マップ

子育て支援に
関連する施設が
すべて網羅



引っ越してきた
親子にも安心

このマップには、その地区の子育て支援センターや子育てサロン、保育所（園）、幼稚園、こども園、小中学校、学童クラブ、障がい児者生活サポートセンター、市役所、公民館、病院、スポーツセンターなど、子育て支援に関連する施設が網羅されています。引っ越してきた子育て中の親子にとっても安心です。



横のつながりを大切に、活動は楽しく

安中市民児協は、全委員を、子ども福祉部会、地域福祉部会、自立支援部会に分け、地区の垣根を越えた部会研修を行っているため、委員の横のつながりができています。研修後、各地区定例会では部会ごとの研修報告を行っています。また委員が1人で悩まないよう、まずは会長に報告するなど、報・連・相を心がけています。楽しく活動できるよう、チームワークで活動に取り組んでいます。

●乳幼児宅訪問事業は民生委員・児童委員みんなで

0歳～2歳の
子どもがいる
家庭が対象

その年に
転入した
乳幼児も対象

安中市民児協の
独自事業

令和元年度の
訪問件数は、
600件



★ 事前準備

市民児協事務局は対象となる乳幼児を抽出し、主任児童委員連絡会に報告します。その後名簿を作成し単位民児協会長に配付します。

名簿に基づき、主任児童委員と区域担当民生委員・児童委員で、訪問日程や訪問方法などについて相談します。

活動がスムーズに進むよう市の広報誌で事前に訪問活動の告知をします。

| 地区 | 訪問対象 世帯数 | 訪問 件数 | 乳児 0歳児 | 1歳児 | 2歳児 | 合計 | 備考 |
|------|-------------|----------|-----------|-----|-----|----|------|
| 中央 | 95 | 79 | 51 | 25 | 3 | 79 | 1045 |
| 北平 | 95 | 79 | 51 | 25 | 3 | 79 | 231 |
| 東部 | 57 | 50 | 28 | 22 | 0 | 50 | |
| 東部地区 | 43 | 41 | 21 | 20 | 0 | 41 | |
| 東部地区 | 14 | 38 | 30 | 8 | 0 | 38 | |
| 東部地区 | 70 | 63 | 33 | 30 | 0 | 63 | |
| 東部地区 | 27 | 34 | 15 | 19 | 0 | 34 | |
| 東部地区 | 17 | 15 | 8 | 7 | 0 | 15 | |
| 東部地区 | 14 | 13 | 7 | 6 | 0 | 13 | |
| 東部地区 | 5 | 5 | 3 | 2 | 0 | 5 | |
| 東部地区 | 4 | 4 | 2 | 2 | 0 | 4 | |
| 東部地区 | 56 | 55 | 28 | 27 | 0 | 55 | |
| 東部地区 | 14 | 11 | 6 | 5 | 0 | 11 | |
| 東部地区 | 15 | 12 | 6 | 6 | 0 | 12 | |
| 東部地区 | 57 | 50 | 28 | 22 | 0 | 50 | |

全地区訪問数一覧

★ 当日の配布物の準備

主任児童委員連絡会で当日配布するリーフレット、チラシ等の内容を検討し準備します。

安中市民児協事務局（安中市役所保健福祉部福祉課）は、パンフレット類の印刷を担当しています。

★ 民生委員・児童委員全員で訪問

毎年、10月～11月にかけて、各地区一斉に訪問活動を開始します。その地区の主任児童委員2人と区域担当民生委員・児童委員と一緒に対象家庭を訪問し、日頃の子育ての様子などを伺います。子育て支援情報の配付物一式を渡し、民生委員・児童委員活動について説明します。

高齢者の見守り活動などで忙しくしている委員も、この訪問活動をとおして地域の子育て家庭の状況を知ることにつながっています。継続して訪問することで、子どもの成長を知ることできます。

★ 主任児童委員間・保健師との情報共有

訪問活動終了後には、主任児童委員連絡会で反省会を開き、取り組みの報告や親子の様子など、情報交換を行い活動の振り返りをしています。

主任児童委員は訪問活動をとおして、見守りが必要な親子などの情報は、市の保健師や健康づくり課や子ども課にフィードバックします。



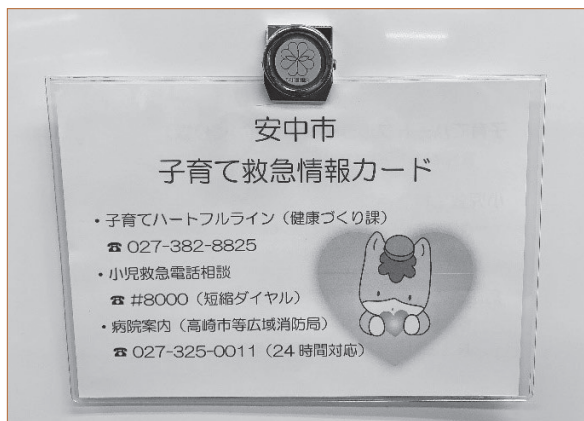
訪問時の子どもへのお土産に、ガーゼのハンカチと紙風船を一緒に持参しています。資材調達から封入まで主任児童委員が担当しています。

● 「あったらいいな」をかたちに

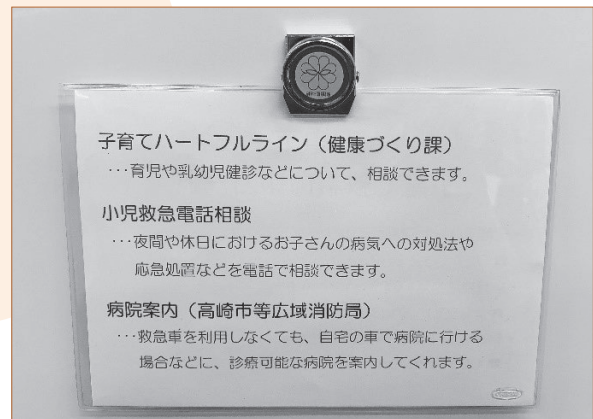
高齢者の救急連絡カードをヒントに、子育て中の親にも同様のものがあれば、いざというときに慌てず、安心と考え、「子育て救急情報カード」を作りました。

冷蔵庫に貼り付けられるようにマグネットクリップも一緒に配付しています。クリップには「安中市主任児童委員連絡会」の文字と民生委員・児童委員のマークを入れたシールを貼りました。カードには子育て相談や夜間・休日の病気への対処方法などの相談先と電話番号が3か所記載されています。

このカードは今年度から始まった取り組みです。今後も継続していく予定です。



子育て救急情報カード



地域の概要と民児協

安中市民生委員児童委員協議会

- 委員構成 民生委員・児童委員165人、うち主任児童委員24人
 ※平成18年に旧安中市と松井田町が合併の際、民児協も1つになりました。単位民児協は12地区。主任児童委員は1地区に2人ずつ配置。
- 安中市
 安中市は群馬県の南西部に位置し、東西に長く、西は長野県軽井沢町と接しています。昔は碓氷峠に関所があり、中山道の宿場町でした。
 古くからの農村地域は子どもが少なく、高崎市に近い地域は子どもが多い状況です。

事例
3

SNSでつなぐ主任児童委員活動 —親子支援—

～赤ちゃん同窓会、赤ちゃん訪問の実践から～

【滋賀県湖南市】 湖南市北地域民生委員児童委員協議会 (菩提寺北学区)
湖南市民生委員児童委員協議会

●きっかけは「赤ちゃん同窓会」の出欠から

★ | 1学区1活動運動に赤ちゃん同窓会

湖南市民児協は1学区1活動運動に取り組んでいます。

湖南市北地域の主任児童委員は、「赤ちゃん同窓会」を企画しました。この活動は赤ちゃん訪問から1年後に、その親子が集まって地域の横のつながりをつくる取り組みです。その出欠にGoogleフォームやQRコードを活用しました。



● Google フォームや QR コードを活用しました

赤ちゃん同窓会招待状には、出欠返信のための4つの方法を記載しました。併せて簡単なアンケートもQRコードから回答できるように工夫しました。

【返信方法】

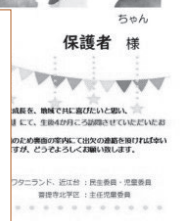
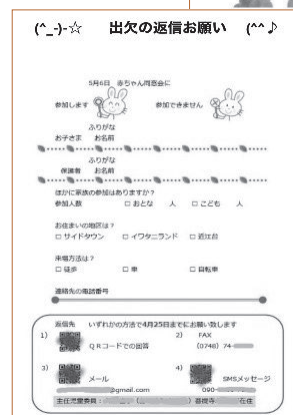
- ① Google フォーム … スマートフォンでQRコードを読み取り返信
- ② FAX …… 裏面の必要事項を記入して返信
- ③ メール … 主任児童委員にメールで返信
- ④ SMS …… 携帯電話のショートメッセージで返信

菩提寺北学区内で前年度に直接赤ちゃん訪問をしたのは34組。赤ちゃん同窓会招待状をお届けしました。招待状のほかにLINE@の案内状も手渡し、お友だち登録もお願いしました。

参加は15組、欠席4組、転居7組でした。

【返信の結果】

- Google フォーム 12件
- メール 4件
- LINE 1件 他



赤ちゃん同窓会招待状



用語解説

- SNS** SNSは、Social Networking Service（ソーシャルネットワーキングサービス）のことで、人と人とのつながりを促進する、コミュニティ型会員制サービスと定義されています。代表的なサービスにはTwitter、Facebook、Instagram、LINE等があります。
- Google フォーム** Google フォームは、インターネットでアンケートや投票などができるグーグルの無料サービスのツールです。Google フォームの画面で自分専用のアンケートなどを作成することができます。スマートフォンでも手軽に回答することができ、回答率のアップにつながります。回答は自動で集計され、結果をグラフで見ることができます。

●赤ちゃん同窓会とは？

赤ちゃん同窓会は祝日に開催しました。父親の参加もありました。

地区担当の保健師が、身長と体重の測定やお話をしました。みんなで輪になって自己紹介をし、いろいろな思いを話してもらいました。おもちゃやゲームで遊び、手づくりおやつを食べ、手形とりなど盛りだくさんの同窓会になりました。お土産は、子どものエプロンを用意しました。

同総会がきっかけで、親同士は横のつながりができたようです。

当日は、菩提寺北学区の民生委員・児童委員が全員運営にあたりました。



赤ちゃん同窓会の様子

●直接つながる LINE @

LINE@は、お友だち登録をした人に直接情報を送ることができるSNSツールです。主任児童委員が定期的に菩提寺北学区の子育て情報を送信しています。届けたい情報をタイムリーに発信できるのが強みです。また、LINE@は主任児童委員と個別に相談することができるので、時間を気にせずつながることができます。



QRコードを入れた名刺

●赤ちゃん同窓会のアンケートも SNS で

★ | 赤ちゃん同窓会の後に…

後日、赤ちゃん同窓会の参加親子に、赤ちゃんの手形、親子写真、集合写真、そしてLINE@の友だち登録や、Googleフォームでのアンケート協力をお願いを同封したセットを渡しました。

Google フォームのアンケート結果

回答数：4 件（参加者 15 組中）

〈抜粋回答〉

Q. 赤ちゃん同窓会楽しめたか。

- ・とても楽しかった …………… 25%
- ・楽しかった…………… 75%

Q. 今回がきっかけで友だちはできそうか。

- ・初対面だったが打ち解けた …………… 50%
- ・知らない人ばかりで不安だった …………… 50%



赤ちゃん同窓会プレゼントとアンケートのお願い

●湖南省全域の活動にも SNS を活用

★ | 「こんにちは赤ちゃん訪問」ホームページ作成

「こんにちは赤ちゃん訪問」は湖南省全地域で実施しています。主任児童委員はこのチラシにQRコードを入れました。

Googleを活用した「こんにちは赤ちゃん訪問」のホームページを作成し、民生委員・児童委員、主任児童委員の活動の紹介と、主任児童委員9人の写真と名前を載せています。

訪問すると勧誘に間違えられることもあり、ホームページで、訪問する主任児童委員の顔と名前がわかることが、安心につながります。



「こんにちは赤ちゃん訪問」のチラシ

★ | 「菩提寺北学区主任児童委員」のホームページ作成

学区のホームページには、子育て支援事業の情報等を掲載。LINEの友だち登録者に、定期的にイベント等の情報発信をしています。

● SNS を活用するためには…

★ | セキュリティについて

GoogleとLINEを活用しているため、各企業のセキュリティに頼らざるを得ません。認証を徹底し他人にはみられないように細心の注意を払っています。

現在は主任児童委員が1人で運営していますが、複数の人が関わることによってセキュリティの危険度が増す可能性があり、対策が必要です。

★ | 後継者について

現在の1人体制の運営を引き継ぐためには、Googleフォームやホームページの作成ができる人を育てていかなければなりません。

● SNS はコミュニケーションツールのひとつ

スマホ世代の若い母親たちには、SNSを利用した情報発信は欠かせません。インターネット上にさまざまな情報が氾濫しているからこそ、民児協からの情報発信が必要です。

SNSは子育て中の親につながるためのツールです。LINEは時間を気にしないことからいつでも寄り添うことができます。さらにSNSの活用を広げるには、組織的な理解と推進の体制づくりが必要です。

地域の概要と民児協

湖南省北地域民生委員児童委員協議会（菩提寺北学区）

湖南省民生委員児童委員協議会

湖南省北地域民生委員児童委員協議会（菩提寺北学区）

- 委員構成 民生委員・児童委員8人、うち主任児童委員1人

湖南省民生委員児童委員協議会

- 委員構成 民生委員・児童委員120人、うち主任児童委員9人
※北地域民児協は5学区、南地域民児協は4学区あります。

● 湖南省

滋賀県湖南省は、平成16年に2つの町が合併してできた人口約55,000人の市です。名神竜王インターチェンジ付近に大きな工業団地が発達し、その周りに住宅地が開発されていきました。従来からの農村地帯と都会的要素がある市です。

事例
4

家庭訪問型子育て支援 「ホームスタート・さくら」

～未就学児の親子を支え、見守る～

【千葉県佐倉市】 佐倉市千代田地区民生委員児童委員協議会

●ホームスタート事業を立ちあげる

★ | 市からのすすめで

未就学児を対象とした子育て支援の必要性を感じていた時、佐倉市児童青少年課からホームスタート事業を紹介されました。まずホームスタート事業の普及活動講演会に千代田地区主任児童委員2人で参加。さらに、臼井地区の主任児童委員が加わり3人でオーガナイザー研修を受講しました。

★ | NPO 法人を活動拠点に

平成27年6月、メンバーの主任児童委員が組織するNPO法人の事業に組み入れ「ホームスタート・さくら」を立ちあげました。

●イギリス発祥のホームスタート事業

ホームスタートは、1973年イギリスで始まった、「傾聴」と「協働」を目的とした家庭訪問型子育て支援ボランティア活動です。世界22か国で実践され、日本はNPO法人ホームスタート・ジャパンが母体となり、現在約100の市区町村の地域団体がホームスタート事業を行っています。



用語解説

- **オーガナイザー** ボランティアを育成・サポートし、利用を希望する家庭のニーズに沿った支援内容をマネジメントする役割です。オーガナイザーになるためには、社会福祉士・保健師等専門職や直接親子に関わる支援活動経験が、少なくとも3年以上あることが必須で、かつ3日間の研修受講が必要です。
- **ホームビジター** 希望する家庭に訪問して傾聴や協働をしながら子育て中の親の心を支えるボランティアです。ホームビジターになるためには、子育て経験があり、延べ8日間の養成講座を受講。受講内容は、守秘義務等の倫理観、傾聴スキルなど演習型の養成講座です。受講は無料。

●民児協が活動をバックアップ

★ 民児協の事業計画に位置づける

千代田地区民児協は、平成20年から「学校開放事業」に取り組み、地域の子どもの見守り活動に力を入れています。区域内の学校を拠点としたことで、住民も集いやすい場となり、さまざまな活動を行っています。その後、区内のセンターにて学習支援「ほっと・すぺーす・わかば」を開始。小中学生の基礎学習のサポートを行っています。

そして、新たに未就学児への子育て支援事業として、「ホームスタート・さくら」を事業計画に位置づけ、活動をバックアップしています。また定例会で、活動報告を行うことで、地域の子育て家庭をめぐる状況を情報共有することができます。また、活動費の一部を補助しています。

★ ホームビジターは身近な子育て応援団

「ホームスタート・さくら」を立ちあげたあと、ホームビジターのボランティアを募集。現在登録者は27人。年代は30代～70代と幅広く、このうち、半数ほどが民生委員・児童委員経験者です。ホームビジターとして、地域の子育て応援団として活動しています。



「ホームスタート・さくら」活動報告

地域の概要と民児協

佐倉市千代田地区民生委員児童委員協議会

- 委員構成 民生委員・児童委員16人、うち主任児童委員2人
- 佐倉市千代田地区

佐倉市は千葉県北部、都心から40キロメートルに位置し、人口は175,000人、面積は103.69平方メートルです。

千代田地区の人口10,528人、世帯数4,270世帯。地区の特徴は、緑豊かな田園地帯に囲まれ、歴史ある在来地区と新興住宅地とがあり、アフガニスタンなど外国籍の家族も増えています。

●利用者の声

初めての赤ちゃんで泣いてばかり、母にも頼れなかった時、ホームスタートに出会いました。

子どもに発達の遅れがあるとわかったとき辛かった。でもそんなときビジターさんがそばにいてくれた。

訪問は終わったけど、辛いことがあると真っ先にビジターさんに電話してしまいました。

主人と離婚を考えていた私。ゆっくりお話を聞いていただき、少し気持ちが落ち着きました。

初めてホームスタートに電話をかけた時、涙が止まらずはなせなかった。でも切らずにまわってしてくれた。



(ホームスタート・さくら活動報告より抜粋)

●「ホームスタート・さくら」の活動は行政と連携

「ホームスタート・さくら」では、保健師との情報共有、行政（健康増進課、子育て支援課、児童青少年課）との連携体制が構築されています。利用者からの直接申し込みが原則ですが、市からの依頼で訪問することもあります。

●地域の身近な相談相手として

主任児童委員が、ホームスタート事業に取り組む強みは、利用者と同じ地域住民として、活動終了後も見守り続けることができることです。活動をとおして、主任児童委員や民生委員・児童委員の周知にもつながります。身近な地域で悩みを聞いてくれる人がいることは、子育て中の親にとって、安心感につながります。

「ホームスタート・さくら」の活動範囲が佐倉市全域となっていることから、今後は他地区の民生委員・児童委員、主任児童委員との連携方法の検討も必要だと考えています。

事例
5

土曜日の子どもの居場所づくり 「香住っ子ひろば」

～公民館を拠点に地域資源を最大活用～

【福岡市東区】東区第6区香住丘民生委員児童委員協議会

●活動のきっかけは 完全学校週5日制

平成14年4月、完全学校週5日制が始まることから土曜日の子どもの居場所づくりに向けた検討を行いました。香住丘公民館が主体となって、民児協会長、主任児童委員、小学校PTA、更生保護女性会会長、公民館館長、校区社会福祉協議会等による実行委員会を立ちあげ検討した結果、毎週土曜日10時～15時まで香住丘公民館で、「香住っ子ひろば」がスタートしました。

●活動終了、そして再開へ

～運営母体の実行委員会から青少年育成連合会に～

平成26年4月、香住丘公民館の建て替えに伴い、「香住っ子ひろば」は終了しました。ところが、保護者から「香住っ子ひろば」の再開を望む声が相次ぎました。

そこで、主任児童委員と公民館館長が中心となり、「香住っ子ひろば」を引き継いでくれる団体を探しました。そこで白羽の矢が当たったのが組織力のある青少年育成連合会でした。主任児童委員が運営に関わることを要件に、平成27年5月の新公民館完成とともに、青少年育成連合会の運営による「香住っ子ひろば」が再スタートしました。

●新しい香住っ子ひろば

★ 負担なく取り組めるよう、活動内容は柔軟に

これまで毎週土曜日に開催していましたが、月2回、土曜日10時～15時に変えて、参加費も月100円から500円に変更。実情にあわせて内容を見直すことも大切です。

★ 活動の安定は財源にあり

運営母体の青少年育成連合会からの補助金に加え、自治協議会や校区社会福祉協議会からの補助金も確保したことで、安定した活動につながっています。引き続き寄付金や食材の寄付も募っています。

★ それぞれの強みを生かしたネットワークが活動を豊かに

活動内容を検討するにあたり、主任児童委員が相談したのは香住丘公民館の館長です。地域の関係団体・サークル、区内の大学など適材適所の人材を発掘。それぞれの強みを生かした活動メニューで、バラエティに富んだ楽しい内容になっています。

「香住っ子ひろば」が中心となり地域の子どもたちをみんなで育むネットワークが広がります。

●それぞれの役割が活動を支える力に

★ 主任児童委員

主任児童委員は、運営のサポート、活動内容の検討、実施に向けた準備、保護者との連絡などを担っています。また、他団体主体の活動は、企画・運営まですべてお任せしています。

★ 民生委員・児童委員

「香住っ子ひろば」は、手作りの昼食とおやつを出しています。民生委員・児童委員も食事作りのボランティアとして協力しています。子どもたちの遊び相手になるなど活動を支えています。

★ 青少年育成連合会

「香住っ子ひろば」の運営主体として、団体の地域力・組織力を活用し、活動を支えてくれる心強い応援団です。

★ 公民館

香住丘公民館は「香住っ子ひろば」の活動拠点であり、地域ネットワークの拠点です。

★ 学生ボランティアと 香住っ子ひろば卒業生

校区内にある九州産業大学と福岡女子大学の学生がボランティアとして参加しています。子どもとの交流をとおして多くの気づきを得て、学生も成長しています。さらに区社協が実施している、地域カフェなどのボランティアに活動の幅を広げている学生もいます。

香住っ子ひろばを卒業した中学生・高校生もボランティアとして参加し、子どもたちをサポートしています。



餅つき



みんなで3時のおにぎり



七夕会の食事風景



登山

●さまざまな団体とのコラボからひろがる活動メニュー

2019年度「香住っ子ひろば」は、年間計22回開催しました。午前と午後、週替わりの時間割で、茶道、体操、レクリエーションなどさまざまな体験をしています。地域の団体とともに活動することで、バラエティ豊かな活動メニューとなっています。



- ＊ 社会福祉協議会とのコラボ企画は、七夕会と餅つきです。
- ＊ 味噌作りを含めた料理教室が年3回、スポーツや手芸教室、また、遠足や博物館見学、登山、音楽会の参加など、盛りだくさんの活動メニューです。



グリッピーの森への遠足

| 月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | |
|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 時間割 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 | 10:30~11:30 11:30~12:45 13:00~14:30 14:30~15:00 |

年間スケジュール表

| 時間割 | 4月 | | | |
|-------------|-----------|---------|----------|-------|
| | 6日 | 13日 | 20日 | 27日 |
| 10:30~11:30 | | 開校式 | DVD/保護者会 | |
| 11:30~12:45 | 春休み | 食事・清掃 | 食事・清掃 | |
| 13:00~14:30 | 4/8 始業式 | 茶道 | フレイク体操 | |
| 14:30~15:00 | 4/11入学式 | 読み聞かせ | 読み聞かせ | |
| 食事 | | | | |
| 時間割 | 5月 | | | |
| | 4日 | 11日 | 18日 | 25日 |
| 10:30~11:30 | | 遠足 | 上作 | |
| 11:30~12:45 | ゴールデンウィーク | グリッピーの森 | 食事・清掃 | 運動会前日 |
| 13:00~14:30 | 休み | | スポーツ | 休み |
| 14:30~15:00 | | | 読み聞かせ | |
| 食事 | | | | |
| 時間割 | 6月 | | | |
| | 1日 | 8日 | 15日 | 22日 |
| 10:30~11:30 | 入産大 | | 料理 | |
| 11:30~12:45 | 食事・清掃 | 休み | 食事・清掃 | 出校日 |
| 13:00~14:30 | 入産大 | | DVD | 休み |
| 14:30~15:00 | 読み聞かせ | | 読み聞かせ | |
| 食事 | | | | |

年末には年賀状作りの活動

年末になると、香住っ子ひろばの子どもたちは、独居高齢者に手作りの年賀状を書きます。令和2年は100枚出しました。



返事が届きました！



- ねんがじょうありがとうございます。がんばってべんきょうしてください。
- 年賀状ありがとうございます。きっと優しい心の方だと思います。
- ねんがじょうありがとうございます。字がとてもきれいですね。香住っ子たのしんでください。

●保護者も安心

働く保護者にとって、「香住っ子ひろば」は安心して子どもを預ける場となっています。それ以上に、さまざまな経験をとおして子どもが成長する姿に意義を見出しています。ボランティアとして食事づくりに参加することもあります。

また、子育ての悩みを主任児童委員に相談することもあり、必要に応じて学校や関係機関につないでいます。

●活動が継続できているのは…

地域のさまざまな団体と**連携・協働**することで、活動の幅が広がります。また、**適宜役割分担**をすることで個々の負担も軽減されます。参加する子どもたちはもちろん、活動に関わるおとなが楽しいと感じることが、**モチベーション**につながっています。

自らが地域の子育て応援団となり、仲間を増やしていきたいと考えます。

●これからも子どもを見守る存在として

主任児童委員と学校との報告会を毎月開催しています。とくにスクールソーシャルワーカーとの連携により、見守りが必要な親子を支えています。個人情報取り扱いに留意しながら、地域での見守りが必要なときは、民生委員・児童委員に速やかにつながります。

「香住っ子ひろば」を軸として、青少年育成連合会や子ども会育成連合会、民児協、その他の関係機関等と連携し、地域全体で子どもを見守る体制を、今後も継続していきたいと考えます。

★ | これからの課題

現在の参加者は43人。学校の1クラスにあたります。運営体制や費用面から、参加希望者は個別相談で対応しています。

活動当初の活動と比較すると、見守りが必要な子どもが増え、対応が難しいときもあります。保護者との連携も大切です。

就業中の委員が増え、活動との両立が課題です。

地域の概要と民児協

東区第6区香住丘民生委員児童委員協議会

- 委員構成 民生委員・児童委員25人、うち主任児童委員2人
- 福岡市東区香住丘校区

福岡市東区香住丘校区は、神功皇后までさかのぼる歴史ある地域です。校区内には、香住丘小学校、香椎第2中学校、香住丘高校、九州産業大学、福岡女子大学がある文教地区であり、博多の中心部から電車で約30分のベッドタウンです。駅前に、都市型遊園地の西鉄香椎花園遊園地があります。

事例
6

退所児童無料学習塾「ひだまり」

～民児協と母子生活支援施設との協働事業～

【大阪市東成区】東成区中本地区民生委員児童委員協議会

●退所した子どもと地域の子どもの居場所をつくろう

主任児童委員が定期的に訪問していた母子生活支援施設リアン東さくらの施設長から、退所する子どもたちを地域のなかで継続して見守るための居場所づくりについて相談がありました。退所した子どもたちだけでなく、不登校や貧困など見守りが必要な地域の子どもの集える居場所をつくるには、地域の力が必要でした。

民児協の方針はただひとつ、無理なく長く続けていくこと。

「まずはやってみよう！」と平成26年4月、民児協と母子生活支援施設との協働による無料学習塾「ひだまり」を立ちあげました。



●「ひだまり」とは ～民児協と施設の協働事業

運営は、民児協とリアン東さくらとが互いの力を発揮し、また補い合えるよう協働運営体制としています。主な役割は、リアン東さくらは事業全体のコーディネート、民児協はおやつや食事作りや子どもたちの話し相手などの見守りをしています。

また、活動場所は、誰でも集えるよう地域の公民館である中本老人憩いの家としました。公民館の使用料、教材などは運営費で賄っています。「ひだまり」の運営費は、民児協が申請した大阪市社会福祉協議会のボランティア助成金を活用しています。

■活動概要

| | |
|----------|--|
| 活動日 | 毎週土曜日 13:30～16:30 (学習時間は3コマ) |
| 対象者 | 小学生、中学生 |
| 活動主体 | リアン東さくらと協働事業 |
| 場所 | 中本老人憩いの家 |
| 参加費 | 無料 |
| 学習支援スタッフ | 学生ボランティア、社会人ボランティア |
| 連携先 | フードバンク (食材提供)、大阪市社会福祉協議会、大阪市ボランティア市民活動センター |
| 財源 | 大阪市社会福祉協議会ボランティア助成金 |



●子どもたちに学習支援 ～学生ボランティアが力を発揮！

当初、主任児童委員や民生委員・児童委員が担っていた学習支援は、学生ボランティアと協力しながら取り組んでいます。

学生ボランティアは、子どもたちにとって、お兄さんお姉さんであり、おとなと子どもをつなぐ存在です。

学習支援の部屋を小学生と中学生に分けたことで安定した学習の場となりました。

リアン東さくらは社会福祉士や保育士の教育実習生を受け入れています。学生は実習の一環として「ひだまり」に参加し、終了後にボランティアとして関わることもあります。施設職員が実習生に対し丁寧に接し、必ず振り返りを一緒にする積み重ねによって、学生は子どもと交わることのやりがいや自分の居場所を見つけます。



老人憩いの家



ひだまりの案内チラシ

●一緒にランチやおやつを ～みんなで食べる楽しさも

当初は学習支援を中心に活動を行っていました。

その後、民生委員・児童委員が子どもたちと話すなかで「孤食」の問題に気づきました。朝ご飯を食べていない、お菓子しか食べていない…。そうした声を受け止めて、月に1回のランチタイムが始まりました。民生委員・児童委員が交替で手作りの昼食とおやつを作り、みんなで一緒にいただきます。子どもたちは毎回楽しみにしています。



「ランチタイム」はみんなで一緒にいただきます



民生委員・児童委員手作りのカレーとクッキー

●地域のなかで施設の機能を生かす

★ | リアン東さくらとは…

リアン東さくらは、昭和47年に母子生活支援施設として設立。令和元年に施設が建て替えられました。他にもショートステイ、緊急一時保護、学童保育などを実施しています。

リアンは「笑顔・きずな」の意味で、家族がさまざまな人びとと集い・想い・つながって、わかちあうことから生まれる“きずな”を大切に1人ひとりが笑顔で飛び立つことを応援しています。

★ | ボランティアの受け入れや子どもの接し方をサポート

「ひだまり」の活動を継続していくために、リアン東さくらは施設のボランティアの受け入れや学生へのサポート、子どもとの接し方など、施設が培ったソーシャルワークを民生委員・児童委員、主任児童委員に提供し、支えてくれています。

★ | 振り返り会議をサポート

「ひだまり」は、2か月に1度、活動終了後の夕方、活動の振り返りを行っています。

参加メンバーは、主任児童委員、民生委員・児童委員、リアン東さくら施設長、施設スタッフ、学生、区役所の子育て支援課、社会福祉協議会、学校の先生など、子どもに関わる機関・団体が集まります。

そこでは、「ひだまり」の活動報告だけでなく、地域全体で子どもを見守るために意見交換・情報共有をしています。

リアン東さくらが、施設の機能やソーシャルワークを地域に提供しサポートすることで、主任児童委員活動が無理なく続けられることにもつながっています。

また、たがいに活動の方向性を確認しあいながら取り組んでいくことで、活動の継続と発展につながっています。

エピソード

5年生から「ひだまり」に通っていた女の子。高校入学が決まった時のことです。

民生委員・児童委員1人ひとりに、手紙を書いてきてくれました。今も大事な宝物です。



話を聞いてくれて気持ちが落ち着きました。
高校頑張っていくからね！



●さまざまな効果がありました

★ 子どもたちには…

子どもたちの学力向上の成果は高校進学率100%が証明しています。「ひだまり」に通ってくる不登校の子どももいます。みんなに受け止められていると感じ、安心して通える場となっています。

★ 民生委員・児童委員には…

民生委員・児童委員は高齢者支援の活動に時間をとられるなかでも、「ひだまり」の活動を通じて、さまざまな状況にある子どもたちに寄り添い、地域で見守る意識が高まっています。

★ 施設には…

リアン東さくらは、「ひだまり」の活動をとおして、地域のボランティアや民生委員・児童委員とつながることで、退所児童の見守りの輪が広がっています。また、施設を利用している親子が地域の子育てサロンに参加するなどの効果も見られます。

●活動を継続していくためには…

★ 新任の民生委員・児童委員の活動への理解

改選で委員が交替になると、新しい委員には活動を理解してもらうことが必要です。主任児童委員は仕事をしている人が多いため、できる範囲で協力してもらうことが大事です。

★ 安定した財源の確保

安定した財源があれば長期的な事業計画を立てられ、人が替わっても継続して子どもたちを見守る体制ができます。

地域の概要と民児協

東成区中本地区民生委員児童委員協議会

- 委員構成 民生委員・児童委員11人、うち主任児童委員2人
- 大阪市東成区中本地区

東成区は大阪市の東部に位置し、区内いずれの場所からでも比較的駅が近く、交通網が充実しています。

なかでも中本地区は、戦前からの家並みが多く現存し、古い街並みが残っている地域です。

事例
7

①川上小学校サマースクール ②乳幼児と中学生のふれあい交流会

【熊本市北区】 北区川上校区民生委員児童委員協議会
北区城北校区民生委員児童委員協議会

川上小学校サマースクール 夏休みの居場所づくり

●小学生の夏休みの居場所をつくりたい

熊本市は小学校区ごとに子育て支援ネットワークが設置されており、川上校区では毎月、民児協と学校とで「子どもサポート会議」を開催し、学校と地域の情報交換をしています。

平成30年、夏休み前の「子どもサポート会議」において、川上小学校校長から、教室を開放し、夏休みに子どもたちの自主学習の場所をつくりたいと相談がありました。自主学習としているため、時間中の子どもの見守りを依頼されました。民児協では子どもたちの居場所づくりの活動を検討中であったことから、夏休みの子どもの居場所づくり活動として、引き受けることになりました。夏休みと同時に、川上小学校のサマースクールを開始しました。

| | |
|--------------|--|
| ■子育て支援ネットワーク | 川上校区では、子育て関連機関・団体等で組織し「まなざしねっと川上」として設立。主任児童委員は事務局として運営の要、ハブ的な役割を果たしています。 |
| ■子どもサポート会議 | 毎月1回開催。メンバーは民児協会長、副会長、校長、教頭で、課題を抱えている子どもについて情報共有し、改善に向けた役割や連携先などの協議をします。 |

●民生委員・児童委員が全員参加

令和元年のサマースクールは、夏休み中の土日やお盆などを除いた19日間開催。全民生委員・児童委員が交代で監督官を担当しました。

主任児童委員は、各民生委員・児童委員の当番可能な日と、学校からの日別の児童出席人数にあわせ、期間中1人が2日～3日を担当する当番表を作成しました。

全委員17人が無理なく関わることができる児童委員活動です。

民生委員・児童委員当番表

| 期日 | 曜日 | 前田 | 田代 | 石橋 | 野原 | 伊藤 | 加藤 | 上田 | 藤本 | 川上 | 米原 | 水本 | 長谷川 | 東 | 中田 | 那須 | 前川 | 津地 | 参加数 | 参加数 | クラス |
|-------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 7月23日 | 火 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 235 | 7 |
| 7月24日 | 水 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 206 | 6 |
| 7月25日 | 木 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 212 | 6 |
| 7月26日 | 金 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 204 | 6 |
| 7月27日 | 土 | お盆休み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月28日 | 日 | お盆休み | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7月29日 | 月 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 185 | 6 |
| 7月30日 | 火 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 | 209 | 6 |
| 7月31日 | 水 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 193 | 6 |
| 8月1日 | 木 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 184 | 6 |
| 8月2日 | 金 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 153 | 6 |

●子どもを見守る

当番の民生委員・児童委員は、子どもが登校すると、朝の挨拶、身だしなみチェック、出欠確認をし、無断欠席者を職員に報告します。教室は低、中、高学年に分け、民生委員・児童委員はクラスごとに見回りをします。

子どもは学習前にサマースクールカードに学習目標や学習内容を記入し、学習を開始します。

基本的に声かけはせず、子どもからの質問に応えることを基本としています。

終了時に、子どもはサマースクールカードに気づきと評価の振り返りを記入します。帰りの挨拶をして、一斉下校します。



学習の様子

●夏休みが終わって

- * 子どもは、夏休み中も学校に通うことで、規則正しい生活ができ、また計画的に宿題を終わらせることができました。
- * 不登校気味の子どもの自主学習であることから通うことができました。
- * 子どもの夏休み明けの登校率が上がりました。
- * 評判を聞いた他校の保護者から実施してほしいという声があがっています。

●やりがいある児童委員活動

- * 民生委員・児童委員はサマースクールで子どもとふれあうことがきっかけとなり、地域でも声をかけあうなど信頼関係を築くことができ、やりがいにつながっています。
- * 子どもをとおして保護者とつながりができ、民生委員・児童委員の周知が図られました。
- * 民児協定例会でサマースクールの振り返りを行い、改善点を来年度の活動につなげます。

民児協と子育て支援ネットワーク

北区川上校区民生委員児童委員協議会

- 委員構成 民生委員・児童委員17人、うち主任児童委員2人
※主任児童委員が校区民児協会長を兼任

●まなざしねっと川上

川上校区では子育て支援ネットワークを「まなざしねっと川上」としています。児童委員活動を民児協単体で取り組むのではなく、まなざしねっとのメンバーとして、他の機関・団体と連携・協働することで、幅広く効果的な活動を行うことができ、民生委員・児童委員の周知や民児協活動のPRに役立っています。

乳幼児と中学生の「ふれあい交流会」

●乳幼児とふれあう機会が少ない中学生のために

平成25年、熊本市北区の主任児童委員部会で、すでに活動している民児協から乳幼児と中学生交流会の報告を聞き、実際に見学に行きました。少子化で中学生が乳幼児とふれあう機会が少ないことから、城北校区でも児童委員活動として交流会を開催したいと考えました。校区内の中学校校長が前任校で「ふれあい交流会」を実施していたことで話が進み、民児協会長に相談のうえ、民児協のバックアップのもと交流会を立ちあげました。

●赤ちゃんから広がる輪

★ 卒業生も参加するなど、交流の輪が広がる

主任児童委員は、4か月までの乳児全世帯の訪問時や、校区の子育てサークル「すくすく・キッズ」などで「ふれあい交流会」への参加を呼びかけました。なかには清水中学校の卒業生である父親や母親もいて、「卒業以来はじめて学校に来ることができてうれしかった!」との声も聞かれました。また、クラス担任の先生の奥さんと赤ちゃんが参加したこともあり、クラスは大いに盛りあがりしました。職場復帰時期が早まるなど、協力してくれる親子が減るなかで、参加しやすい仕組みの検討も課題です。

★ 妊娠や出産の喜びを思い出して

主任児童委員は事前に協力してくれる親に、当日中学生に話すための資料などの準備のお願いをします。妊娠から出産、子育てのことなどを、母子手帳、胎児エコー写真、へその緒、アルバム、育児日記などの準備をしながら、妊娠や出産の喜びなど自分の子育てを振り返る時間となっているようです。

★ 事故防止のために

乳幼児が参加する活動のため、保険への加入はもちろんのこと、参加対象年齢は4か月以上の乳幼児にするなど、事故防止を心がけています。

民児協と子育て支援ネットワーク

北区城北校区民生委員児童委員協議会

- 委員構成 民生委員・児童委員13人、うち主任児童委員2人
※城北校区民児協会長が熊本市民児協会長を兼任

- 子育て支援ネットワーク

民児協を中心に、校区社協、小中学校、保育所や幼稚園、PTA、青少年育成協議会など、子どもに関わる機関・団体で構成する子育て支援ネットワークを設置。民生委員・児童委員と主任児童委員は、ふれあい交流会のほかにも、学習支援の寺子屋、高齢者の見守りをするジュニアヘルパーなど、連携し合いながら活動を広げています。

●交流会は民生委員・児童委員のサポートで

「ふれあい交流会」は主任児童委員が司会者となり、全体の紹介や交流会の流れを説明し、進行します。

★ 当日の流れ

- ＊ 5人～6人の生徒と乳幼児の親子2組で1グループをつくり交流します。民生委員・児童委員は1グループに2人ずつ加わります。
- ＊ お互いに自己紹介したあと、親が事前に準備した母子手帳、育児日記、エコー写真、アルバム、へその緒など持参した資料などをもとに話をします。生徒は質問したり、赤ちゃんを抱っこしたりあやしたりしてふれあいます。民生委員・児童委員は話し合いがスムーズにいくよう適宜サポートします。
- ＊ 時間中、保健師がグループごとに生徒に妊婦体験ジャケットを着用させ、妊婦体験をします。

★ 運営のサポート

民生委員・児童委員は、駐車場の案内、参加親子の受付や会場への案内、乳幼児の親へのお礼など、運営に関わるサポートをします。



ふれあい交流会の様子

●ふれあい交流会がもたらす力

- ＊ 中学生は…多くが乳幼児とふれあう経験がなく、命の大切さを実感し、**親への感謝の気持ち**が生まれています。
- ＊ 乳幼児の親は…妊娠から出産、子育てについて振り返り、話をすることで**子育ての自信**につながっています。
- ＊ 中学校は…「ふれあい交流会」は、**命の大切さの実践授業**です。

●交流会は家庭科授業

清水中学校は、「ふれあい交流会」を中学3年生の家庭科2時限分の授業としています。1クラスごとに開催するため、ふれあい交流会は、毎年5～6回の開催となっています。



事例 8

はやどおり 早通子ども食堂「ひまわり食堂」 ～地域住民施設を拠点に多世代交流～

【新潟市北区】北区豊栄早通地区民生委員児童委員協議会

● 「ひまわり食堂」をオープン

★ 孤食の子どもたち

共働き家庭やひとり親家庭が比較的多い地域であることから、子どもが夜ご飯を1人で食べていたり、夏休みの昼食も公園でお弁当やお菓子を食べたりするなど十分でない状況が見られました。子どもが安心して、楽しく食事ができる場の必要性を感じていました。

★ 運営委員会を立ちあげよう

平成28年、主任児童委員2人が中心となり、早通地区民児協、早通地区自治会連合会、早通地域コミュニティ協議会、地域教育コーディネーター、老人会など17人が参加して、子ども食堂運営委員会を立ちあげました。まず初めに、全国の子ども食堂の視察をし、さらに研修を受け、地域の実情にあった子ども食堂の検討を行いました。同時に、小学校に対して子ども食堂に関する意見を聞き、準備を進めていきました。

★ 地域の拠点に子ども食堂

同時期、早通地区では新潟市のモデル事業助成金と地域の企業・団体や住民の寄付金をもとに、地域住民による会館の建設を進めており、その施設で子ども食堂を立ちあげることにしました。調理室や付帯する備品等も準備段階で予算化されました。

平成29年4月、早通健康福祉会館の開館と同時に、早通子ども食堂「ひまわり食堂」がオープンしました。



地域教育コーディネーター

新潟市では、学校が今まで以上に地域に開かれ、地域とともに歩むことができるよう「**地域と学校パートナーシップ事業**」を行っています。

地域教育コーディネーターは、学校と地域をつなぐための役割で、地域住民から地域教育コーディネーターを選び、全小中学校に配置、地域の学校支援ボランティアとともに、さまざまな形で子どもたちの教育に関わっています。

●活動拠点は“全世代が集う健康福祉会館”

★ | 地域住民の願いの実現をめざした施設

「ひまわり食堂」が拠点としている早通健康福祉会館は、早通地域コミュニティ協議会と早通地区自治会連合会が中心となり、新潟市の助成金と、地域募金および企業・医療・福祉法人や住民からの寄付により建設されました。建設にあたり、全世代に対してアンケート調査を実施。社会的孤立を防ぐ仕組みや多世代が交流できる拠点を求める声があがりました。そうした住民の声を実現するために「自分たちで健康を守り、多世代が交流できる場」として、さまざまな活動が行われています。



早通健康福祉会館

★ | 世代を問わず利用できるひまわり食堂

「ひまわり食堂」は世代を問わず利用できる食堂として、毎月第2・第4土曜日の10時から開催しています。定員は50人、予約制ではないので、10時から受け付けを開始し整理番号を配付。1回で全員が食堂に入れないため、番号順に2回に分けて食事を提供しています。食事まではホールで民生委員・児童委員やボランティアと遊びます。



ひまわり食堂案内板

★ | 健康福祉会館の企画

「ひまわり食堂」が拠点とする早通健康福祉会館は、赤ちゃんから高齢者まで、住民の誰でも集まることができる地域の拠点で、住民の力で企画運営しています。

子育てサロンの「ベビーカフェぴよぴよ」から、高齢者の「デイホームひだまり」まで、サロンや講座・教室、映画や落語など、どの世代でも参加できるような企画を立てています。この施設に年間延べ2万人が集まります。



平成 29 年度早通健康福祉会館 1 年のあゆみ

● 「ひまわり食堂」を支えるのは地域の力だ！

★ 民生委員・児童委員の役割

子ども食堂開催の2日前に、民生委員・児童委員4人～5人が、車で「コープにいがた」に食材を取りに行きます。「コープにいがた」では、新潟市の子ども食堂のために、定期的に食材を無料で提供しています。また、開催当日は、受付から配膳、子どもたちの遊び相手などをします。

民生委員・児童委員は高齢者宅等を訪問する際に、ひまわり食堂の開催チラシを持参し、参加を促します。

★ 食材の支え

食材の寄付は、「コープにいがた」ばかりではありません。「フードバンクにいがた」からは主に米、地域の農家からは米や野菜、新潟青果協会から果物、新潟の企業から米、地域の商店からケーキなど、毎回寄付が届きます。

★ 資金の支え

新潟市地域活動補助金、早通地区民児協補助金、PTAからの寄付金や、会館利用者などからの募金により運営しています。ただし、新潟市地域活動補助金は今年度まで。継続のための、安定した資金確保を検討中です。

★ 調理スタッフの支え

地域で高齢者への配食サービスに従事していたボランティア14人が、子ども食堂の調理スタッフとして参加しています。毎回メニューは7品から8品と、バラエティに富んでいます。



みんなでテーブルを囲みます



テーブルのレイアウトを変えたよ！



みんなで一緒にクリスマスの準備



「ひまわり食堂」便りを毎月発行しています

● “孤立を防ぐ” 交流の場になっている

「ひまわり食堂」には、中高年齢層のひきこもりの方や、認知症高齢者、障がいのある方とその家族など、地域から孤立しがちな住民も参加しています。民生委員・児童委員は、訪問時に「ひまわり食堂」を案内して、子どもたちと一緒に食べることの楽しさを伝え、参加をすすめています。子どももおとなも食をとおして楽しい時間を過ごす、多世代交流の子ども食堂です。

● 強まる学校との連携

主任児童委員は、毎朝登校時の見守り活動をとおして、子どもとの信頼関係を築いてきました。また、子ども食堂ができ、健康福祉会館に子どもたちが集まることで、子どもを見守る地域の方が増えてきているそうです。

主任児童委員が、地域教育コーディネーターを兼ねていることで、子ども食堂開設前から校長、教頭先生に相談したり、実際に活動に参加して、理解を深めていただいたりしています。

また、見守りが必要な子どもやその家庭については、学校や要保護児童対策地域協議会との情報共有を心がけています。

● 人材確保などが課題

子どもの食物アレルギーについては、事前に保護者から同意書をもらうことで対応しています。そのため食物アレルギーに対応した食事提供は行っていません。宗教による食材についても未対応です。今後の対応については、検討中です。

現在の運営体制では、月2回以上の子ども食堂の開催は難しい状況です。

これから活動を広げていくためには、新たな人材の確保が必要です。子どもを地域で見守るネットワークづくりの視点から、サポーターを募りたいと考えています。

地域の概要と民児協

とよきはやくどり 北区豊栄早通地区民生委員児童委員協議会

- 委員構成 民生委員・児童委員14人、うち主任児童委員2人、協力員1人
- 新潟市北区早通

新潟市北区にある早通地区は、27の自治会があり、水害をきっかけに住民の連帯が強まり、新旧の自治会がまとまり、連合会を形成しています。人口約1万人、世帯数3,800世帯

3 実践事例のまとめと考察

東洋大学 助教 地域における児童委員・主任児童委員の活動等の現状と課題に関する調査研究委員会委員
泉谷 朋子

1 はじめに

『地域における児童委員・主任児童委員の活動等の現状と課題に関する調査研究 報告書』（以下、報告書）では、8か所の民児協の実践事例を紹介しています。この8事例は、令和元年度全国主任児童委員研修会開催にあたり実施された事前事例アンケート調査の回答を参考に選びました。アンケート調査の回答を拝見し、民生委員・児童委員（以下、児童委員）、主任児童委員の皆さまの活動が非常に幅広く、お話しをうかがいたいと思った事例が他にもたくさんありました。すべてをご紹介できないのが本当に残念です。ここでは、8つの実践事例をもとに、活動の立ち上げ、継続のヒント等について考察したいと思います。

2 実践事例について

報告書で紹介した8つの実践事例は、経過年数が10年以上のものから、活動開始から間もないものもあります。活動の対象者は0歳から中学生までの子どもだけでなく、子どもの保護者や世代を問わず地域の方となっているものもあります。

| | 事例 | 開始時期 | 対象 |
|-----|-------------------------------------|--------------------|------------------------|
| 事例1 | 赤ちゃんルーム「チルチル・ミチル」 | 平成12年～ | 1歳未満の子どもがいる学区在住の保護者 |
| 事例2 | 安中市乳幼児訪問事業 | 平成13年～ | 0～2歳までの子どものいる家庭 |
| 事例3 | SNSでつなぐ主任児童委員活動～親子支援～ | 平成31(令和元)年～ | 赤ちゃん訪問から1年経過した子どもとその家族 |
| 事例4 | 家庭訪問型子育て支援「ホームスタート・さくら」 | 平成27年～ | 6歳以下の未就園児がいる家庭 |
| 事例5 | 土曜日の子どもの居場所づくり「香住っ子ひろば」 | 平成14～26年、平成27年～ | 小学生 |
| 事例6 | 退所児童無料学習塾「ひだまり」 | 平成26年～ | 小学生・中学生 |
| 事例7 | ①川上小学校サマースクール ②乳幼児と中学生の「ふれあい交流会」 | ①平成30年～ ②平成25年～ | 小学生・中学生 |
| 事例8 | 早通子ども食堂「ひまわり食堂」 | 平成29年～ | 世代を問わず |

3 活動の立ち上げ

活動の立ち上げ状況は大きく3つのグループに分けることができます。

ひとつめは、関係機関から相談を受けて活動が始まったグループです。学校と民児協で情報交換会議を開催している、主任児童委員が地域の施設を訪問している等、関係機関と民児協の間で関係性ができ

ていることが活動の立ち上げにつながっているのだと思われます。事例6、事例7の①などがこのグループに該当します。

ふたつめは、児童委員、主任児童委員が「こんなことやってみたい!!」と思って始められたグループです。他の民児協や団体が実施している活動を見学に行き、自分達だったらどのように活動できるか検討を重ね立ち上げに至っています。事例4、事例7の②、事例8などが該当します。また、活動に利用するSNSの利便性をリサーチされた事例3もこのグループに入るでしょう。

3つめは、長年取り組まれてきた民児協の活動が発展したグループです。事例1や事例2では、「赤ちゃん訪問事業」等が発展した活動となっています。事例5も民児協が関わっていた居場所づくり活動が発展的に継続している事例ということができます。

活動が多様であるように、活動の立ち上げもこうでなければならないというかたちはないように思われます。児童委員、主任児童委員が主体的に活動を立ち上げる時は、「地域のニーズ把握」「活動に関する情報収集」がポイントとなります。日々の委員活動を通して「地域のニーズ」を把握し、そのニーズに対応するためどんな活動ができるのかをリサーチすることが大切です。そうすることで活動の意図、意義、内容が具体化されていきます。

活動は児童委員、主任児童委員が個人的に行うのではなく、民児協が組織的に取り組むものです。会長をはじめ、民児協の他の委員に活動の主旨を理解してもらうため、活動が有益であることを示す根拠を提示することが大切です。

4 継続のヒント

活動を立ち上げる時にはさまざまな準備が必要ですが、活動を継続するためにも同様の配慮が求められます。実践事例では、活動を継続するための課題として「人材確保と活動体制の検討」「財源の確保」「活動の周知、活動の拡大に向けた工夫」等が挙げられていました。活動を継続するためのヒントとして、次の3点について述べたいと思います。

第1点は、「参加者を第一に考えた活動であること」です。子どもたちの居場所づくり、保護者の孤立防止を目的に始めた活動は、参加者が楽しい、ホッとできる活動でなければ意味がありません。事例6では不登校の子ども、事例8では中高年層のひきこもりの方や認知症高齢者、障害のある方とその家族などが活動に参加していると報告されています。活動場所が地域で孤立しがちな方たちにとっても安心できる場になっていることがうかがえます。

第2点は、「社会資源を活用する」ことです。事例6は福祉施設と民児協が協働している事例ですが、担当地区にある福祉施設に関わっていらっしゃる委員も多いと思います。福祉施設に限らず地域には活用できる資源がいろいろあると思います。行政の保健師、地区の自治会連合会等、関係機関などフォーマルな社会資源だけでなく、委員の皆さんだからこそ知っているインフォーマルな社会資源を活用することで活動に幅がでます。活動に参加する人だけでなく、協力・協働する相手にも、SNS等を駆使して自分たちの活動を周知・発信していくことが望まれます。

第3点は、「無理なく活動する」ことです。活動が頻回で、毎回参加しなければならないというような状況は各委員の負担になります。無理なく活動に参加できるよう各委員が担当する日数を決めたり(事例7の①)、児童委員が交代で食事作り等を行う(事例6)、児童委員と主任児童委員と一緒に活動する(事例2)といった工夫が大切です。また、事例3で指摘されているように、担当者だけが業務を把握しているのではなく、役割を明確にしたうえで、組織として活動できるような体制を検討していくことも必要です。就業している児童委員、主任児童委員が増えており、活動が負担にならないように、各委員ができることを通じて活動に参加するといった工夫が不可欠です。また、定例会等で活動報告等を行

い、民児協としての取り組みであることを共有する仕組みづくりも重要です。

児童委員、主任児童委員が行う地域活動の強みは「縦横のつながりをつくること」だと思います。実践事例では、保護者同士がつながるきっかけ（事例1、事例3）、子ども食堂を通しての世代間交流（事例8）が紹介されています。事例7の②では、中学生が乳児と接することで命の大切さを知るだけでなく、大先輩である乳児の保護者（中学校の卒業生）から話を聴くことで、親になること、将来のことを考えるきっかけになっていると思われます。また、子育て支援を受ける側にある乳児の保護者が、中学生に話をすることで自分たちも役に立てることがあると実感し、それが子育ての自信につながっていくと考えられます。

活動を継続させるためには、子どもと家族が主体的に地域に関わることができるような活動を、参加者の目線で考えることが不可欠です。また、定期的に活動を振り返り、主催者主体の活動になっていないかを検証し、活動内容の見直しを行うことが必要です。

5 児童委員、主任児童委員の資質の向上に向けた取り組み

少子化が進み、地域によっては子どもと関わる機会がなかなかもてず、児童委員、主任児童委員として地域活動の実施を考える時、子どもに直接的にかかわる活動をイメージされることが多いかもしれません。しかし、紹介した8例のうち半数は、乳幼児とその保護者を対象としています。保護者がホッとできる、楽しいと思うことができる活動は、間接的に子どもに還元されます。一方、事例5、6、7の①の活動では、子どもの居場所づくりに貢献するだけでなく、規則正しい生活や学習習慣が身につく、高校受験に合格するといった成果が見られ、保護者等から活動に期待する声が上がっています。子どもの楽しそうな様子を見て、保護者が児童委員、主任児童委員の活動、地域での活動に興味をもつきっかけとなります。

子どもはひとりでは生活していません。必ず保護者、保護者に代わる大人と一緒に生活しています。子どもの声は、時に保護者や一緒に生活する大人の声にかき消されてしまうことがあります。児童委員、主任児童委員には、子どもの声、保護者・家族の声、それぞれに耳を傾け、話を「聴く」ことが求められます。「聴く」時には、子どもや保護者・家族から発せられる言葉に着目するだけでなく、表情、声のトーン、身なり、しぐさ等言葉以外の方法で表現される話し手の思い・様子をキャッチすることが大切です。近年、見守りが必要な子ども、支援を必要とする保護者・家族が増えているといわれます。どんな子ども、保護者・家族でも「良いところ」「強み」があります。普段から、「聴く」こと、「良いところ」を見い出すことを意識し、委員活動に活かしていただきたいです。

6 最後に

新型コロナウイルスや自然災害等により、生活困難な状況に陥る人が増えています。子どもやその家族だけでなく、高齢者、生活に困窮している人等、地域には支援を必要とする人がたくさんおり、なぜ子どもに特化した活動が必要なのかという意見もあるかもしれません。

子どもが参加することで地域の人が参加しやすくなったり（事例8）、活動を通して保護者が地域活動に関心をもったりすることもあります（事例5、7）。子どもと家族のための地域活動を検討する際、その活動が地域にどのような影響・利益を及ぼすのかを考えると、民児協としても取り組みやすくなるのかもしれません。子どもと家族のための活動と点でとらえるのではなく、その活動が線となって地域全体につながっていくと考えることが大切です。